

# 上里の地場産物

## ～梨の巻～



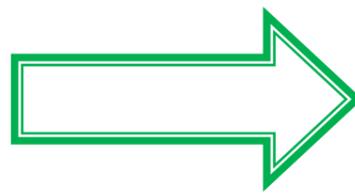
夏の暑さもだんだんと落ち着き、梨の<sup>なし</sup>おいしい季節になりました！梨は、甘さの<sup>あま</sup>なかに、ほんのりとした酸味<sup>さんみ</sup>が特徴<sup>とくちょう</sup>の果物ですね。今回の給食<sup>とうじょう</sup>に登場する梨は、すべて上里町でとれた梨です。上里町で梨を育てている相川さんに、おいしい梨を作るための工夫などをインタビューしてきました。

### 梨の木のようす



広い梨の木の畑には、樹<sup>じゅ</sup>齢<sup>れい</sup>（木の年齢）10年<sup>わか</sup>くらいの若い木から、50年を超え<sup>わか</sup>る古い木までたくさん植わっています！

梨の木は、上に高く<sup>の</sup>伸ばしてしまうと、木の中の実に太陽があたりず大きくならなくなってしまいます。どの実も同じように太陽があたるように、木を低く広く伸びるように育てるんですよ。実がなる高さはだいたい140cm位です。



梨の木は低いので、かがみながら<sup>しゅうかく</sup>収穫<sup>しゅうかく</sup>します！

梨の木に実をつけるためには、4月にある<sup>かふん</sup>花粉<sup>かふん</sup>つけという作業がかかせません！花にしっかりと花粉をつけることで、おいしく丸い梨が育ちます。6月は木の枝が上に向かって伸び出す時期ですが、実<sup>み</sup>に<sup>の</sup>おいしい栄養を送るようになるため、木の枝から伸びてきた芽<sup>め</sup>を切る仕事もあります。そうすることで木が伸びるために使う栄養を、実の<sup>の</sup>おいしさのために使うことができるんです。そして、8月に<sup>しゅうかく</sup>収穫<sup>しゅうかく</sup>をむかえます。また、冬場<sup>ふゆば</sup>は木が休み、次の実をつけるために<sup>えいよう</sup>栄養<sup>えいよう</sup>をためる時期なので、肥料<sup>ひりょう</sup>をあげて次の夏にむけての<sup>じゅんび</sup>準備<sup>じゅんび</sup>をしているんですよ。私たちがおいしい梨を食べられるのは、生産者<sup>せいさんしゃ</sup>の方が1年中手をかけているからなんですね！



せいさんしゃ あいかわ たかき  
《生産者の相川 崇樹さん》

梨の実がなるまでには5か月ほどですが、木を作るところから考えれば何十年もかかっています。長い期間、手間ひまかけて作ったおいしい梨です。上里町は梨の<sup>さんち</sup>産地<sup>しゅん</sup>なので、旬<sup>しゅん</sup>の梨をたくさん食べてくださいね！

本庄上里学校給食センター